

池 田 市

笑うまちには福来たる  
「落語のまち」へいらっしゃ〜い

はじめに

社会人落語の初代日本一が決定!



古くから交通の要衝として発展してきた池田市は、「池田の猪買い」「池田の牛ほめ」など古典落語の舞台にもなっています。また、明治初期に建てられ、現在は愛知県犬山市の明治村に移築保存されている芝居小屋「呉服座」では、著名な噺家たちによる寄席が開かれ、本市のみならず、北摂の落語文化の拠点として親しまれてきました。

また、現在(社)上方落語協会の会長を務める桂三枝さんが在住されており、初代・二代目桂春團治さんの碑が市内の寺に建立されているなど、落語家との縁も深い町です。

落語とのふれあいの場がオープン

このような中、平成19年4月29日に「池田市立上方落語資料展示館(愛称・落語みゅーじあむ)」がオープン。また同年10月には、名誉館長に桂三枝さんが就任しました。

これは、平成13年に始まった本町通りの整備工事に合わせて、昭和初期に建てられた古い家屋の面影を残しながら新築したものです。その建物を本市が

借り受け、伝統文化の継承・発展、観光振興や地域の活性化、また、市民の身近なコミュニケーションの場を設けるために開設することにしました。

市立の落語資料展示館は日本初で、各種の展示をはじめ、1,000点以上に及ぶ上方落語のDVDやCDなどの資料を無料で鑑賞・視聴することができるのとあって大好評です。また、定期的(第2土曜日の午後2時)に寄席が開かれており、こちらも毎回大盛況です。

落語を素材にした池田ブランド登場

一方、落語みゅーじあむがオープンしたのを機に、本市では落語を中心とした池田ブランドづくりが進められてきました。

阪急「池田」駅周辺の商業団体が中心となって構成する「池田ブランド構築事業推進委員会」が企画したこのブランドは「おたなK A I W A I」と名付けられました。これは、北は落語みゅーじあむ、南はインスタントラーメン発明記念館までをエリアとし、エリア内の商店などが、それぞれ落語のネタにちなんだ独自の商品やサービスを展開するというも

落語のネタにちなんだ商品がズラリ



のです。これにより、市民をはじめ近隣観光客に「落語のまち池田」を楽しんでいただいています。

#### 落語家のガイドで商店街をそぞろ歩き



例えば、『はてなの茶碗』というネタがあります。有名な茶道具屋さんが茶碗を見て「はてな」と首をかしげたせいで、それを見た油屋さんが茶碗を名器だと思い込み、一もうけしようと手に入れました。ところがその茶碗は安茶碗、ただ、割れてもいないのに漏れてしまうので首をかしげただけ、というあらすじ。このぼたぼたと漏れる茶碗に掛けて、ぼたぼたとコーヒーを落とす、取っ手の形が「？」のコーヒードリッパー「はてなの茶碗ドリッパー」が完成しました。

単に落語のネタを冠しただけの商品ではなく、「これ、おもしろいな」と言ってもらえる、話のネタにしてもらえることもポイントです。平成20年のスタート時には22店舗でしたが、現在は48店舗がそれぞれに知恵を絞った商品を扱っています。これらの一店一席が分かる散策マップも作成しており、落語家の案内で商店街を練り歩きながら商品を紹介するガイドツアーなどのイベント開催時には、参加各店を中心に無料配布しています。

### 社会人落語の初代日本一を決定

落語みゅーじあむでは、「池田の猪買い」「池田の牛ほめ」を落語家の指導で学ぶ「アマチュア落語家入門講座」や好きな演目で学べる「中級コース」や「中の上級コース」も開催。講座修了者はその成果を「アマチュア落語家発表会寄席」で披露するととも

に、名誉館長である桂三枝さんから修了証が授与されるだけでなく、高座名を付けてもらえます。

また、今年には池田市制施行70周年であることから、記念事業として「社会人落語初代日本一決定戦」が開催されました。対象は学生を除く社会人で、江戸・上方・古典・新作・創作落語を問わず出場者を募集したところ、北は北海道から南は沖縄までの全国から362人の応募がありました。まずは映像や音源に収められた挑戦者の演目を審査し、150人の一次審査通過者を決定しました。

続いて8月15日に市内5会場で一次審査通過者による予選を行い、無事通過した8人が市民文化会館で熱戦を繰り広げました。その結果、初代日本一には市内在住の五月家ちろり（本名・南野三千世）さんが選ばれました。

### おわりに



5月29日には来館者が10万人を超えた落語みゅーじあむ。皆さんもぜひ、「落語のまち池田」を目で耳で肌で感じてください。そして、興味のある方は池田で落語家デビューしませんか。

#### 【ご案内】

池田市栄本町7-3（TEL 072-753-4440）

開館時間：午前11時～午後7時

（火曜日、年末年始は休館）

入館料：無料（落語会などは有料）